



報道関係者各位

PRESS RELEASE 2016年6月1日

No. 2016-008-1/2

## 日本・インドネシア等国内外からゲストを招き、世界の動向を紹介 “アート&テクノロジー”をテーマに、国際シンポジウムを初開催

～メディアアートの歴史と地域性、東京における芸術文化のプラットフォームを考える～

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)と共催し、「メディアアート」をはじめとした時代を牽引する革新的な技術による芸術文化の創造・発信を目指し、“アート&テクノロジー”をテーマにした国際シンポジウムを開催します。

本シンポジウムでは、デジタルテクノロジーや情報空間を活用した新たな表現活動の動向を広く捉えるため、美術表現から社会課題への取り組み、コマーシャル等の大規模なプロジェクトまでを含む“アート&テクノロジー”についての国際的な動向に着目します。東南アジアを含む国内外の様々な地域からゲストを招き、アーティストの視点や創造性、意欲的な活動を見せる海外の施設などを紹介するほか、経済成長や技術革新に寄り添いながら進展してきた同分野の日本における歴史的な変遷についても語ります。

“アート&テクノロジー”の動向を地域的、歴史的な観点から再検証することで、現在と未来、社会と芸術、個人と公共を繋ぐ芸術文化における新たなプラットフォームのあり方を考えます。

当日は、報道関係者席をご用意しております。ぜひご取材と当日の参加をご検討頂きますようお願い申し上げます。ご希望の場合は、7月1日(金)までに、Fax: 03-5369-6044 または、E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp) まで出欠のご連絡をくださいますようお願い申し上げます。



### ■メディアアート国際シンポジウム

「“アート&テクノロジー” — 時代の変遷、同時代の動向、これからのプラットフォーム — 」

【日時】 2016年7月9日(土) 13時-18時(開場:12時30分)

【会場】 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー4階)

【参加費】 入場無料[要事前申込・先着順] 【言語】日本語/英語(同時通訳付き)

【登壇者】 真鍋大度 (アーティスト/ライノマティクス)

アンドレアス・シアギャン (アーティスト、エンジニア/ライフパッチ)

阿部一直 (山口情報芸術センター[YCAM]副館長)

畠中実 (NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]主任学芸員)

※その他、登壇者調整中

ウェブサイト: <http://jfac.jp/culture/>

主催: アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、国際交流基金アジアセンター

特別協力: NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

※内容は変更となる場合があります。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター(担当: 廣田) Tel: 03-5369-6140

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当: 川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)



## <参考:シンポジウム概略>

### 現在のメディアアートに至る歴史的な変遷と、国内外の最新事例を紹介

日本では1970年代以降、経済成長や技術革新に寄り添いながら、“アート&テクノロジー”の視点を有する先駆的な芸術表現が試行されるようになりました。メディアアートをはじめとするこうした表現は、新たなアートフォームの実験と、急速な技術革新と社会変化への批評、既存の美術館制度の再検証といった様々な命題を提示し、現在に至るまで世界各地の文化施設やフェスティバル、教育機関、アートコレクティブにてその実践がなされています。

本シンポジウムでは、日本のメディアアートのターニングポイントとなった1970年の大阪万博から東京2020オリンピック・パラリンピックを前にした現在までの歴史的変遷や、“アート&テクノロジー”の領域で意欲的な活動を見せる国内外の専門施設の動向をご紹介します。

### 日本、インドネシアから、個性的な活動を繰り広げるアーティストやキュレーターが集結

一般的に「メディアアート」とは、メディアテクノロジーを手法またはテーマとした芸術表現を指す言葉ですが、近年ではそれらを応用した様々な表現を目にする機会が増えてきました。たとえば、大画面での高精細な映像表現や、大規模な建築物へのプロジェクションマッピングなど、先端的な技術を用いた表現は、企業や商品の広告、コンサートの演出など、私たちの日常にも身近なものとなっています。一見すると斬新さや目新しさに注目が集まるこうした表現ですが、国際的に活躍する作家はどのような視点や創造性をもって作品制作を行っているのでしょうか。本シンポジウムでは、現在におけるメディアアート表現の多様性と、作家独自の視点を紹介することを目的とし、Perfumeの演出でも知られるライブマティクスの真鍋大度氏や、インドネシアのジョグジャカルタを拠点とし、教育と市民社会のための様々なプロジェクトを手がけるライフパッチのメンバー、アンドレアス・シアガン氏等の多彩なゲストをお迎えします。



【左】真鍋大度（アーティスト/ライブマティクス）【日本】

【右】アンドレアス・シアガン（アーティスト、エンジニア/ライフパッチ）  
【インドネシア】

### <プログラム(予定)>

13:00-13:10	イントロダクション
13:10-14:50	<b>[Session 1] 日本のメディアアートの歴史的変遷と同時代の先駆的事例</b>
15:00-16:30	<b>[Session 2] アーティストの視点、テクノロジーの動向</b>
16:40-18:00	ディスカッション

会場: NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー4階  
<http://www.ntticc.or.jp/>

申込方法 [先着順]:

件名を「シンポジウム申込」として、お名前(ふりがな)、ご所属を本文にご明記の上、[mediaartsympo@atelier-canon.jp](mailto:mediaartsympo@atelier-canon.jp) までメールにてお申し込みください。

国際交流基金アジアセンター <http://www.jfac.jp>

(The Japan Foundation Asia Center)

国際交流基金アジアセンターは、アジア域内に住む人々の間に、共に生きる隣人としての共感、共生の意識を育んでいくことを目指し、文化事業、知的交流事業、日本語教育事業をはじめとした幅広い分野で、日本とアジア諸国との交流と協働を促進、強化するさまざまな活動を行っています。東南アジア地域を主な対象とする交流事業や調査・研究活動などを支援する助成プログラムも実施しています。